

第4回不登校相談会・交流会 実施記録



TOMIYA



宮城県富谷市 保健福祉部 子育て支援課
株式会社 トライグループ

第4回 不登校相談会・交流会のようす

開催日：11月15日（土）

開催場所：東向陽台公民館

第1部 相談会

講話テーマ 『大学生の支援から児童のケアを考える』

講師のご紹介

宮城学院女子大学 特別支援室コーディネーター
公認心理師 松田 るり 氏

小中学校や・教育センター等で
カウンセラーをされていた経験もあり、
大学生の支援を通して感じたことや、
小学生～高校生の段階でのこどもの
向き合い方のアドバイス等をお話して
くださいました。



宮城学院女子大学の特別支援室とは…



学生生活や修学での困難や問題のつまずき
を感じている学生の問題改善に向けて、
「必要な支援」を学内外と連携しながら
支援している場所

休憩スペースもあり、いつもたくさんの学生が
利用している

《こんな時に学生が利用》

- ・保健室に行くまでもないが、少し休憩したい
- ・一人の時間を過ごしたい



《特別支援室に相談に来る学生に多く見られる特徴》

- ・ 小学校～高校で不登校を経験
- ・ 通信制の高校を卒業
- ・ 診断名まではつかなかったが、精神科や心療内科に一時通院していた
- ・ 大学で久しぶりに通学制・対面式の授業を受ける



↓

大学生活において戸惑う場面が出てくる



↓

学生一人ひとりの状況によって個別に検討し、
配慮の内容を決定

支援を希望した学生への配慮の例

- ・ 合理的配慮依頼文書の配布（大学内の共有、外部講師へ）
- ・ 教室内座席の配慮
- ・ 指示や配布資料に関する配慮
- ・ PC・タブレットの持ち込み許可
- ・ 提出物の期限延長



青文字：大学におけるサポートのポイント
赤文字：不登校支援にも繋がるポイント

大学に入る理由

- ・高等教育を受けたい
- ・資格を取得したい
- ・大学卒業という履歴を獲得して給料を上げたい
- ・社会人になる準備期間がほしい
- ・自立したい（一人暮らしをしたい）

しかし…卒業をするためには、決められた単位を決められた期間内に取得する必要がある

自己管理の必要性

- ・必要な情報収集
- ・スケジュール管理
- ・健康管理

⇒将来自立する上で生活に必要となること

《配慮を必要とする学生が大学生活で困ること》

文章をまとめるのが苦手

- ・高校までは穴埋めの問題が多く、文章を書くことに慣れていない
⇒レポートの作成が困難

必要な情報を自分で管理することができない

- ・高校までのようにホームルームがないため、必要な情報は自分で集める必要がある
⇒情報の見落とし、聞き落としが発生する

人との関わりが苦手

- ・同年齢との共同作業に慣れていないため、グループワーク主体の授業でつまづいてしまう
- ・対人関係が苦手なのに対人援助職を目指そうとしたことで授業内容を苦痛に感じてきた

ストレスが体調不良となって表れる

- ・環境の変化、小さな失敗の積み重ねがストレスになり、精神的な症状が表れた（再発した）



卒業をするための要件を満たすためには、**配慮や支援が必要**

《配慮・支援を受けるためには》

こんな相談も…

- ・発達障害と診断されていることを本人は知らないので、大学でも本人に知らせず配慮をお願いしたい
- ・親が相談しに行くので、授業のことは親に連絡してほしい

⇒どちらも対応不可

学生本人が支援を希望している（ヘルプを出す）ことが大切

なぜなら…

- ・アドボケイト（権利擁護のための意見表明の支援）は重視する
- ・本人が知らないうちに支援することは「自分では支援要請できない」とみなすこと、軽視、見下しという差別になる

特別支援室では

学生本人が経験を増やしていくことを大切にしている

○失敗も大切な経験（その機会を奪いたくない）

○失敗経験を経て、自分がやりたいことを考えるきっかけになったり、よりベターなやり方の習得に繋がる

面談では…

なぜうまくいかなかったか？を振り返り、自己理解を深め、克服するためのより効果的な・本人に合ったやり方を模索する



特別支援室を利用した学生の例

※いろいろなケースをおりませた仮想ケース

＜Aさんの場合＞

- ・レポートの締め切り日や試験日の変更連絡に気づかず、評価対象の期間が過ぎてしまった
⇒単位を落とした科目が多いことを心配した担任の先生に連れられて特別支援室に来室
⇒定期的に面談を実施



- ・小学校の頃から忘れ物や提出物を忘れてしまうことが多かった
- ・中学校は不登校
- ・高校はクラスメイトと上手くいかずに通信制へ在籍



- ・同世代の友達はいなかったが、先生は話やすく、親身になってくれた
- ・勉強は嫌いではなかった



大学生活では…

- ・友達はなかなかできないが、1人で行動する学生がちらほらいるのを見て、自分も割り切ることにしたら、少し楽になった
- ・おしゃべりをしたり、自分の考えを整理したりするのに、学生相談室のカウンセリングを定期的に利用
- ・推し活を通して知り合った大学外の友人と徐々に意気投合
- ・友人に「もう少しやわらかい色の方が似合うかも」と言われ、メイクを変えてみたらゼミで褒められ、大学でちょっと話す人ができた
※推し活を受け入れてくれる友人のアドバイスは受け入れられた

自ら希望して病院を受診したところ…

- ・特性について診断され、心理検査であらわれた自分の得意・不得意について詳しく説明を受けた
- ⇒ショックは受けたものの、納得もした



現在は自分のもつ発達特性を考慮しつつ、就活を進めている

Aさんのケースのまとめ

- ・失敗・つまづきをきっかけに、特別支援室に来室
- ・面談で授業への対策を考えて、徐々に自分がやりやすいやり方がわかってきた
- ・授業対策が落ち着いてきたら、少しずつ視野が広がっていった
- ・「自分は自分でいい」自分の苦手や失敗を認められるように
- ・周りに受け入れられる嬉しさも体験し自信がついた



強い学生に共通していること

- ・不登校の間も保健室の先生やスクールカウンセラーに自分の話をしていることが多かった



大人に「自分のことを話す」という経験を重ねてきた人は、困ったときに相談するハードルが低いかもしれない

何も言わずに欠席が続く学生は…

- ・カウンセラーは、話したことが全部先生に筒抜けになるのでは…と思っていた
- ・親や先生に何か言っても聞いてくれない、「学校に行け」しか言われなかったと思っていた



話してよかった、という機会が得られない
まま来た人は、ヘルプを出すハードルが高い
かもしれない

大学生支援から考える児童期のケア

《ネガティブな感情も『社会化』が必要》

泣いている赤ちゃんに対して…



こわかったね

と気持ちを代弁すると…



こわかったけど安心
⇒ネガティブな感情も
抱えられるように



泣くな！！

と否定すると…



泣く自分はダメだ
と感じてしまう

《失敗しても立ち上がってチャレンジできるためには？》

- ・どんな自分（の感情）も認められてきた人は自己肯定感が高くなる
- ・失敗した自分も「かけがえのない自分の一部」として認められるため、失敗した自分を否定することなく立ち上がれる



《どうやったらヘルプが出せるようになる？》

大人になって社会に出る前に…

- ・ひとりで生きるのは難しい、複雑な社会になっている
⇒支援者を探して「ヘルプ」を出せる力は重要！
- ・『話したらいいことがあった』『楽しかった』『悪くない気持ち』…そんな経験をできるだけしてほしい

《予言の自己成就（自己成就的予言）》

- ・人（集団）がもつ信念が、態度や行動に反映され続けた結果として現実になること

例：「銀行が倒産する」という噂話が広まり、多くの人がかぞって預金をおろした結果、本当に倒産の危機に陥ってしまった

※個人でも、ネガティブなことでもポジティブなことでも起こると言われている

先生がこどもの能力が高いと信じることによって、実際にそのこどもの能力があがった（ピグマリオン効果）



過度な期待をするのではなく、
「この子はありのままのこの子で大丈夫」と信じるのが大切

《保護者の皆さんへアドバイス》



こどもに時間や手を
かけなければ…

話を聞いて
あげなければ…



こどもにとっても「複雑
な世の中」だけれど、親
にとっても厳しい世の中

親も話を聞いてもらう
場所が必要

①どうしたらいいかを
聞くところ

②こんなことがあったんです！
と聞いてもらうところ



日時を設定し、「お母さん・お父さんを休む」宣言をすることもひとつの方法

➡ 頑張りすぎず細く長く子育てをしましょう

第2部 交流会・個別相談

松田氏の講話を聞いた後は、質疑応答の時間を設け、参加者から今の状況を打ち明けながら、こどもとの関わりや心配なことについての質問があがりました。



質問①

自己肯定力が低いと口にするこどもに対して今からやってあげられることはあるか？

回答

まず弱みが言える関係性が素晴らしい。こどもが話したいタイミングで聞いてあげることが大切。いつ話が聞けるタイミングかを事前に伝えあげるのも良い。

質問②

不登校のため学力が心配だったが、そんなに焦らなくても大丈夫か？

回答

学校に行っているからといって学力が高くなるとは限らない。まずは焦らないことが大切。市の支援などを利用するのも良い。

＜個別相談＞

不登校支援コーディネーターや運営担当者が個々の状況を聞き取り、参加者と一緒に今後のこどもの向き合い方について考えたり、アドバイスを行ったりしました。



アンケートの感想

- ・安心した
- ・色々な情報が得られた
- ・大変満足した
- ・こどもとの向き合い方が変わりました



第4回目は、実際に大学で実施されている学生への支援状況を知り、そこから見えてくる小学生～高校生のうちに経験しておいた方が良いこと、支援者を探して自分からヘルプを出せるようになることの大切さを知ることができました。周りに支援してくれる人はたくさんいます。ひとりで悩まずにヘルプを出すことはこどもだけでなく、大人にとっても大切なことです。この相談会・交流会がヘルプを出す1つのきっかけとなればと思います。

今後の開催日程（予定）

12月13日（土） 13：00～17：00

会場：富谷中央公民館

講話：医療法人東北会 東北会病院

副院長 村田 祐二 氏

テーマ：「病院を訪れる不登校の子どもたち
～これって子どもの心のSOS?!～」



1月16日（金） 13：00～17：00

会場：東向陽台公民館

講師：尚絅学院大学 特任教授

東北大学 名誉教授

公認心理師・臨床心理士 加藤 道代 氏

テーマ：「不登校が教えてくれるもの」



